

(5) 東 海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

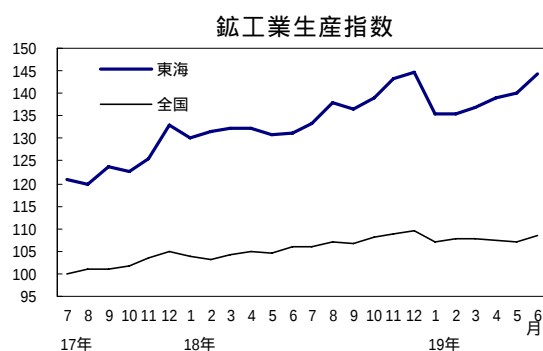
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

輸送機械は、完成車の国内向けが引き続き伸び悩んでいるものの、海外は欧州向けを中心に好調だったことや、自動車部品の輸出が好調だったことなどから、高水準で推移している。一般機械は、半導体製造装置が国内外向けに、土木建設機械が世界的な需要の拡大から海外向けにそれぞれ好調だったことから、高水準で推移している。電気機械は、内燃機関電装品や電動機が自動車関連向けを中心に堅調に推移し、制御機器も半導体関連向けを中心に好調だったことから、高水準で推移している。窯業・土石は、食器・陶磁器、タイルなどが引き続き低調に推移したものの、ファインセラミックスは自動車向けを中心に堅調だったため増加している。化学は、自動車関連向けが好調なことなどから、高水準で推移している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に、液晶素子がテレビ、携帯電話など情報通信機器向けにそれぞれ好調だったことなどから、高水準で推移している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成19年6月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
輸送機械	33.9	▲2.8	3.6	▲0.1	25.4
一般機械	11.3	▲4.3	5.6	1.2	5.0
電気機械	7.3	▲4.5	0.5	1.3	▲16.5
窯業・土石	6.1	▲3.2	2.5	▲0.9	3.9
化学	5.4	▲1.3	3.3	1.3	0.6
鉱工業	100.0	▲4.5	3.9	1.8	4.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

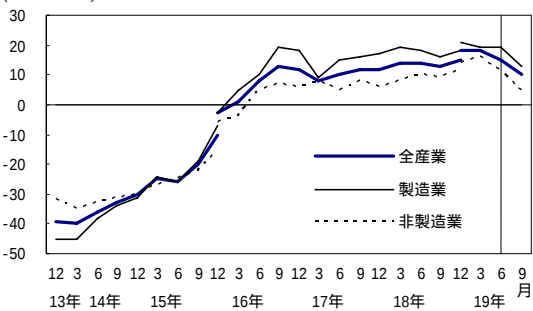
2. 4～6月期は速報値。

3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

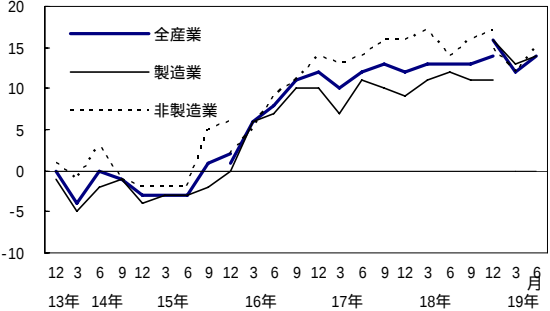
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



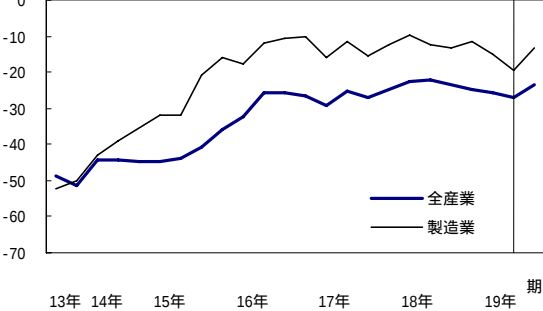
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (7 月) [企業動向関連 (現状)]

「取扱物量、荷物量は、前年同月比で 2 % ほど増加している。しかし原油や石油製品の価格の高騰によって、衣食住の様々な製品が値上がりしていることが影響しているのか、荷物量の増加に見合った利益確保は出来ていない (輸送業) 」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

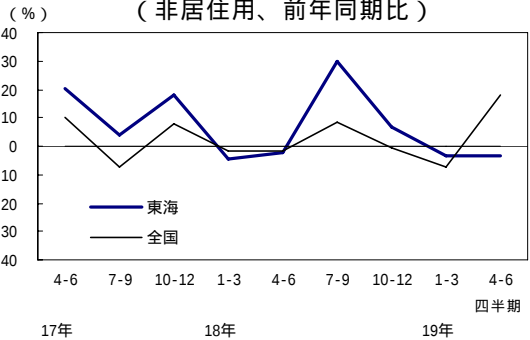
(3) 19 年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	18 年度実績	19 年度計画
全 産 業	11.0 [14.5]	9.4 [4.2]
製 造 業	2.6 [6.1]	2.9 [▲ 0.5]
非 製 造 業	29.4 [33.1]	20.7 [12.6]

(備考)[]は前回 (3 月) 調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

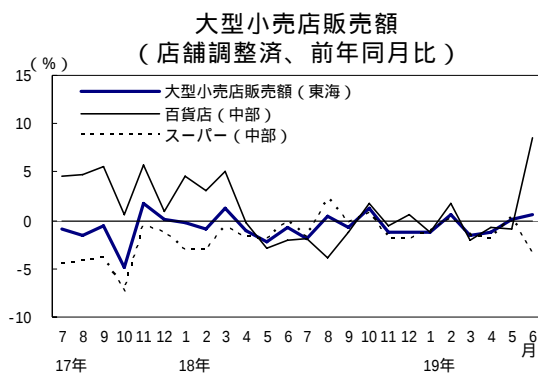
百貨店は、4月は、宝飾品・時計など高額商品の動きはよかったものの、天候不順により衣料品が全般的に伸び悩んだことなどから、前年を下回った。5月は、「母の日」関連商品や食料品の動きはよかったものの、昨年より土曜日が1日少なかったこともあり客足が伸びず、主力の衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。6月は、中元商戦が好調だったことに加え、春夏物の「クリアランスセール」を例年より1日前倒しして6月30日から始めたことが大きく貢献し、4か月ぶりに前年を上回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の7月の売上高は、前年同月比で4.8%減となっている。

スーパーは、主力の飲食料品、衣料品共に不調だったため、全体でも前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「3連休に台風が来た影響で、売上は大きく減少している。天候不順のため、水着や浴衣の盛夏商材も不調である。しかし、中元商戦は前年から売上を大きく伸ばしており、全体が不振というわけでもない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

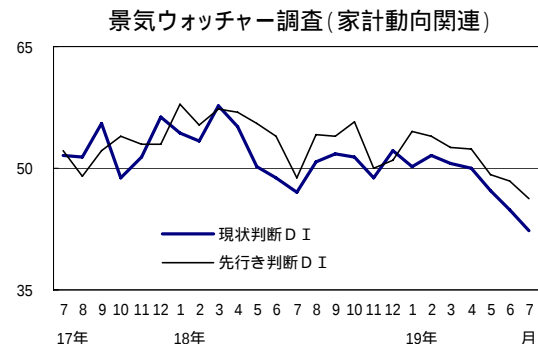
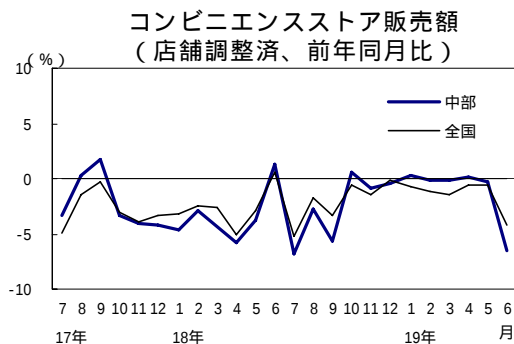


	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	▲0.8	▲0.5	▲0.9	▲0.2
百貨店	▲2.2	0.6	▲0.7	2.2
スーパー	0.1	▲1.1	▲0.8	▲1.7
コンビニ	▲5.1	▲0.2	0.0	▲2.3
景気ウォッチャー	49.9	50.8	50.8	47.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

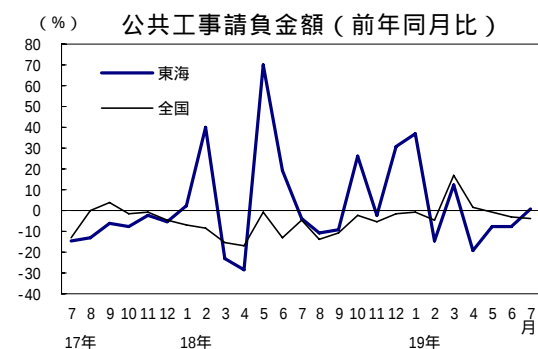
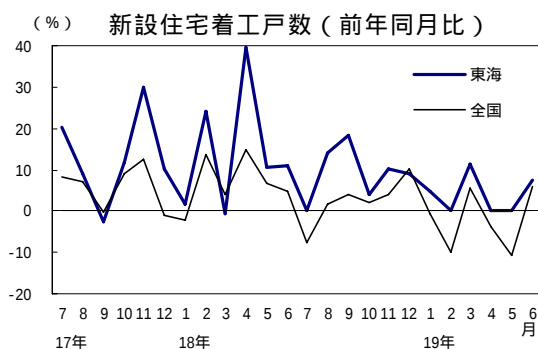
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

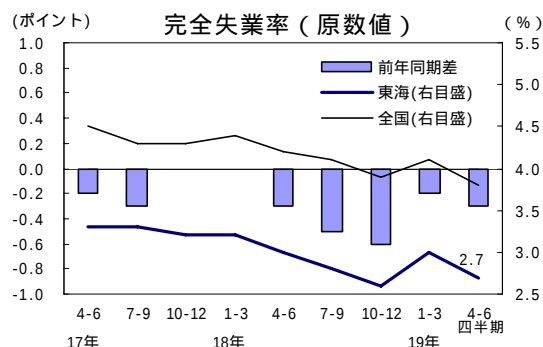
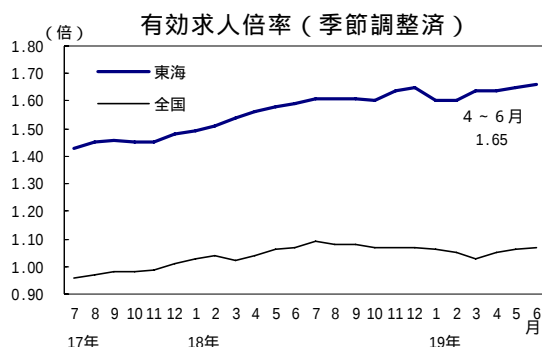


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

「大手企業からの求人数は、相変わらずかなり多い。しかし、中小企業からの求人数は、やや減少傾向にある（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

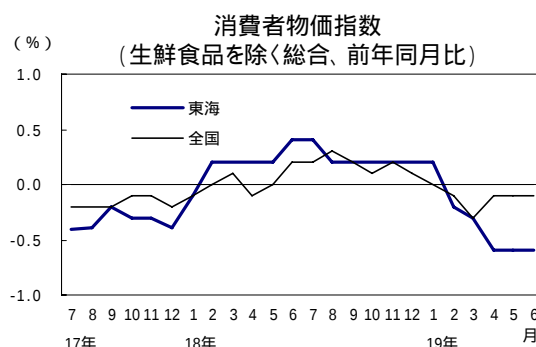
(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数がおおむね横ばいとなっている。

7月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	288	323	319	307	121
(前年比)	▲4.3	▲5.6	3.2	2.3	36.0
負債総額	1,023	939	886	755	336
(前年比)	▲21.8	▲36.1	▲11.5	▲45.8	31.4



○ 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・家族連れはそれなりにお金を使うが、若者のグループは財布のひもが非常に固い（観光名所）

<先行き>

・正月商品が売れ始めている。また、来年度の動きも出てきている（旅行代理店）

景気ウォッチャー調査（合計）

